

授業科目 高次脳機能障害作業療法学

【担当教員名】 能登真一	対象学年	3	対象学科	作業
	開講時期	後期	必修・選択	必修
	単位数	1	時間数	30

【一般目標：G I O】
高次神経障害について、評価に基づいた機能障害別作業療法アプローチを行うために、治療メカニズムやその方略を理解する。

【行動目標：S B O】

1. 高次神経障害に対する作業療法的介入の原理を理解できる。
2. 高次神経障害に対する介入の効果について説明できる。
3. 個々の症状のメカニズムを理解できる。
4. 症状ごとのアプローチの観点について述べることができる。
5. 症状ごとのアプローチ実施のための準備をすることができる。
6. 対象者の高次神経障害の全体像を把握し、治療計画を立てることができる。

回数	授業計画又は学習の主題	SBO	
		番号	学習方法・学習課題又は備考・担当教員
1	高次神経障害に対する作業療法的介入の原理	1	講義
2	高次神経障害に対する治療・援助の実践過程と治療計画の立案	1, 2	講義
3	失語に対するアプローチ	3, 4, 5	講義・演習
4	失行に対するアプローチ1	3, 4, 5	講義・演習
5	失行に対するアプローチ2	3, 4, 5	講義・演習
6	半側空間無視に対するアプローチ1	3, 4, 5	講義・演習
7	半側空間無視に対するアプローチ2	3, 4, 5	講義・演習
8	失認に対するアプローチ1	3, 4, 5	講義・演習
9	失認に対するアプローチ2	3, 4, 5	講義・演習
10	記憶障害に対するアプローチ	3, 4, 5	講義・演習
11	注意障害に対するアプローチ	3, 4, 5	講義・演習
12	前頭葉症候群に対するアプローチ	3, 4, 5	講義・演習
13	認知症に対するアプローチ	3, 4, 5	講義・演習
14	症例検討	6	講義・演習

【使用図書】	＜書名＞	＜著者名＞	＜発行所＞	＜発行年・価格・その他＞
教科書				
参考書	作業療法学全書第8巻 「高次神経障害」	日本作業療法士協会監修	協同医書出版社	1999年[改訂第2版]・2600円
その他の資料				

【評価方法】	【履修上の留意点】
小テスト・・・20％ 期末試験・・・80％	